

第1回 北九州生産性向上推進会議 議事録

- 1 開催日時 平成31年2月27日(水) 15:00~17:25
- 2 開催場所 北九州学術研究都市 産学連携センター 2F
- 3 推進組織名称 「北九州生産性向上推進会議」
- 4 協議内容・次第等
 - ・15:00~16:05 〈第1部〉 会場:特別会議室
推進会議設立趣意説明、革新的生産性向上フォーラムの総括、推進会議の今後の進め方 他
 - ・16:10~17:25 〈第2部〉 会場:研修室
市内中小企業と大学研究者を交えたフリーディスカッション
テーマ:「市内中小製造業のスマート工場化に向けた課題と展望」

5 参加者

◇第1部 推進会議 (総計24名)

【委員】

北九州商工会議所	専務理事	羽田野 隆士
北九州市立大学	副学長	梶原 昭博
九州工業大学	大学院生命体工学研究科長	花本 剛士
早稲田大学	大学院情報生産システム研究科長	巽 宏平
北九州工業高等専門学校	校長	原田 信弘
北九州革新的価値創造研究会	座長	清永 誠
北九州市 産業経済局	企業支援・産学連携部長	兼尾 明利
北九州産業学術推進機構	理事長	松永 守央

【オブザーバー】

九州経済産業局 地域経済部	製造産業課長	平田 実(◆)
福岡県工業技術センター	機械電子研究所 所長	櫻谷 洋一
九州職業能力開発大学校	校長	岡田 龍雄

◆公務欠席のため、代理出席者有

◇第2部 フリーディスカッション (総計45名)

<大学等、企業、Sler等 約20名が参加>

6 議事録

◇第1部 推進会議

【本推進会議の進め方】(FAISより)

●FAISとしての様々な施策や取組みを紹介。

【今後のスケジュール案】(FAISより)



- 具体的には H31 年8月までに関係者と情報交換するなど積極的な接触を図り、H32 年2月にレビューし、取組みを整理、北九州市全体で取組む生産性向上の取組みをまとめたい。
- これから実施するフリーディスカッション(第2部)にはやる気のある賛同者をどんどん追加し、広げつもりである。

【意見交換】

- 総合的な話は異存なし。日本商工会議所も北九州のものづくりを評価している。
- 市内だけに留まらない情報発信をお願いしたい。Sler も市内だけでは足りない。北九州はゴールに到着する前にこんなことをやっているよ、と出していけば、SDGsを上手く活かせる工夫も必要。
- ものづくりの街として ICT を利用した新しい北九州のステップと考えている。
- 結論を出す前にそのような視点や過程を出していくことは大事である。
- ロボットを入れた工程管理となるとやり方が随分変わってくる。技術の変化が早いため、技術者の再教育と学での人材育成を両輪として進めるべき。
- 中小企業には人材不足で人を出すことが出来ない現実がある。根本的に経営者の意識を変えていかなければ何も進まない。北九州市は中小企業が多いため、成功例や指針を作らないといけない。
- こんな時代だからこそ、「学び」を継続しないと結果に結びつかないと考えている。



◇第2部 フリーディスカッション

【フリーディスカッションとして企業、Sler、大学等の自己紹介】

- 各社から自社技術や生産性向上を進める上での課題、各研究者からは研究テーマや協力できる分野、方法等についての紹介。

【意見交換】

- 一社では出来ないネットワークを広げるためには、このような集まりは非常に助かる。
- このような会議でいつも感じるのは乱立気味ではないか、ということ。シンプルに統合して分かりやすくできないだろうか。企業としてメリット、デメリットを判断するために必要である。
- 自律的にどんどんパートナーが増えていくことを考えている。
- アメリカでは軽食をつまみながら・・・という会が結構あるが、日本ではフランクに話が出来ることがなかなかない。そんなネットワークを自由に作れる場所を、という思いがあり、始めてまいりたい。